

令和7年度 学校経営報告

東京都立水元特別支援学校長

野口 幹人

はじめに

本校は昭和51年に開校した知的障害特別支援学校である。校舎の老朽化に伴って東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画に基づき、建替え工事に入り、令和2年に現校舎で教育をスタートさせた。

新校舎は35学級想定で建築されたが、今年度はすでに75学級と、40学級も想定を上回り、今後も児童・生徒数は増加傾向にある。ハード面で2分教室の増加など、決して良い環境とは言えない分、ソフト面の教育内容の取組を充実させることを重視して学校経営に取り組んできた。具体的には、児童・生徒が自分で学習に見通しをもてるよう、児童・生徒全員分の個別課題ボックスを新たに購入し、児童・生徒の一人で学習に取り組む意欲の育成及び学認知機能の向上を図ったり、担任が変わっても教育内容が引き継がれるよう、全校統一の絵カードコミュニケーションツールの活用などに取り組んだりすることで児童・生徒のもてる力を伸長することに注力した。また、キャリア教育の一環として、地域のリソースを活用し、職業見学を行い、「働く」ことについての学習を深めた。また都立葛飾特別支援学校と連携を図り、高等部との円滑な接続を意識した学習に計画的に取り組んだ。以下令和7年度の学校経営結果を報告する。

1 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1)【学校運営】

本校は児童・生徒数が増加の一途をたどる状況に併せて、教職員数も増加し、管理スパンがとて大きくなっている。この大規模な教職員数を組織的に学校運営に参画させるため、校長・副校長・主幹教諭・主任教諭・教諭とそれぞれの職層が、職層に求められる職務遂行を意識し、見通しをもって業務に当たることが大切である。小学部・中学部設置校として副校長の配置が1名であるので、副校長を強力に補佐する主幹教諭に求められる職責は大きいですが、幸いに本校に配置された主幹教諭は7名と定数より多く、主幹教諭をいかに効果的に学校運営に参画させるかが鍵となると考えた。

今年度から週に1回行われる主幹会議に校長、副校長も参加し、主幹教諭の横の連携と管理職との縦の連携を強化した。昨年度までは、主幹教諭が自分の業務に係る議題を個別に管理職に審議し、方向性を確認してきた。主幹会議に管理職が参加することで、それぞれの主幹教諭が今どのような業務を抱えているか、どのように進めようとしているのかが可視化され、管理職の意向によりどのように決定されたか、一連の流れとして全員が認識できるようになった。このことが、主幹教諭の連携が図られ、学校運営に係る全部の業務内容が、小学部主任、中学部主任が把握でき、学年主任会として各学年主任に伝達され、学年会で全教員に周知できる形ができた。このことにより、組織的に学校運営を進める仕組みづくりができたと考える。

取組目標	取組結果	自己評価
主幹会・企画調整会議に管理職が参加し、業務の進行管理を行う。	計画通り実施	A
一人一回研究授業	計画通り実施。対象教員全員が研究授業を実施。校長として年間のべ140回の授業観察を実施。若手教員及び10年目の中堅教員について年3回の研究授業を義務化されており、校長として2～3回授業観察を行い、初回の助言が生かされて	A

	授業改善が行われた授業を確認できた。	
ヒヤリハット、事故、児童・生徒の体調の変化が管理職まで即報告が上がる体制を強化する。	首から上の大きなけがはゼロを達成することができた。また、体調不良者が出た場合は、保健室から管理職まで即連絡があがる体制が確立している。	A
学校ホームページ及びSNSの活用による広報活動の推進	年間更新目標 200 回以上を達成。	A
サービス事故ゼロの取組	サービス事故防止研修年 3 回実施、クリーンデスクの言葉掛けと確認等により、校内で発生したサービス事故はゼロであった。	A
経営企画室と連携した円滑な予算執行	センター執行率 73.6%であり、目標 70 パーセント以上を達成。	A

(2) 【学習指導】

学校の使命は「子どもたちに良い授業を提供すること」「良い授業を提供できる教師を育成すること」だと考えており、そのための取組を進めた。一部の児童・生徒分しか確保できていなかった個別課題ボックスを全児童・生徒分をまかなえるよう 380 台を購入し、児童・生徒自らが学習に取り組みるように学校として統一した個別課題ボックスの活用法も学校掲示板で周知した。そのことで、担任が変わっても、個別学習に向かう仕組みは継続されるよう整えることができた。

取組目標	取組結果	自己評価
段階別指導計画、段階別教材フォルダ等の検証を兼ねた研究授業の実施。	計画通り、一人 1 回研究授業を実施した。	A
若手教員（一年次から三年次）を対象とした研究授業観察及び助言の実現	一人 1 回以上を目標としていたが、61.8%の若手教員には 3 回の授業観察を、38.2%の若手教員には 2 回の授業観察を行い、直接助言を行い、授業改善の取組を確認できた。	A
今年度の研究テーマに基づく外部専門家を招いた校内研究会の実施、	計画通り年 3 回実施できた。	A
ICT 機器を活用した授業の推進	研究授業を延べ 140 回観察したすべての授業の中で展開時間のいずれかの個所で ICT 機器を活用して授業を行っていることを確認した。	A

(3) 【生活指導】

保護者の方が安心して自身の子供を送り出せると学校を信頼していただいてこそ、より良い教育が提供できると考えるので、今年度も安心・安全な学校生活を送ることができる生活指導に尽力した。生活年齢を加味した規範意識の醸成は、学校教育全般において指導した。また、災害時の立ち居振る舞いや避難の方法について、年 1 1 回の実効的な避難訓練を繰り返し児童・生徒への定着に取り組んだ。

取組目標	取組結果	自己評価
校内チェックリスト及び毎月のヒヤリハット報告を活用した事故防止の確認。	毎月の職員会議で生活指導部が集約したヒヤリハット事例報告を行った。全教員の事故防止の意識を醸成した。	A

規律性や社会性を養う挨拶の励行	校長が朝、児童・生徒昇降口に立ち、挨拶を行った。挨拶を繰り返す中で、徐々に頭を下げるしぐさができるようになってきた児童・生徒が多く見られた。	A
実効性のある避難訓練の実施	火災と地震、Jアラートを想定しての避難訓練をすべて計画通り実施できた。防災教育推進委員会と当該月の避難訓練日を合わせ、委員に避難訓練の助言を受けることができた。	A
不審者対応訓練、セーフティ教室の実施	警察と連携し、不審者が侵入してきた際の教員の動きを確認し、警察から助言を受けることができた。おおむね好評価をいただいた。セーフティ教室は、	A

(4) 【進路指導】

小学部・中学部設置校である本校は、高等部時に進学する都立葛飾特別支援学校との連携が不可欠である。高等部見学会、高等部作業体験、教員間交流など、密に連携してきた。高等部の指導を理解し、中学部の指導に生かし、また校内で進路指導の考え方を共有することで、小学部の教員にも生活年齢を意識した進路指導を進めることができたと考える。また、地域の様々な施設の御協力で、ポニー乗馬体験、清掃工場見学、西水元福祉センターの清掃活動等本校の教育活動に効果的に生かすことができ、今後も関係を継続していく。

取組目標	取組結果	自己評価
小学部高学年からの職場見学、就労体験を実施する。	校内の給食調理員や用務主事の作業見学、葛飾清掃工場の職場見学等を予定通り実施した。	A
上級学部の授業を見学し円滑な学部間接続を行う。	小学部6年の中学部授業見学、中学部3の都立葛飾特別支援学校の授業見学を計画通り実施できた。	A
水元版キャリアパスポートの活用	各学部・学年で段階に応じた様式で自分のやりたいことや将来のことを考える機会を作ることができた。	A

(5) 【特別活動・その他】

今年度から2大行事である、体育発表会と水元まつりを学部開催とした。今年度は中学部が体育発表会を、小学部が水元まつりを実施した。行事の運営の方法等を確認し、また来年度から始まる緊急増築棟の建設工事を鑑み、体育発表会を発展的に解消し、令和8年度から体育授業参観週間として実施することとし、全校で水元まつりを実施することにした。また、水元特別支援学校で伝統的に実施しているポニー乗馬体験を継続的に実施するとともに、令和5年度・6年度に指定を受けた体育健康教育推進事業で作成したオリジナルダンス、水元ダンスを継続して行っている。今後も続けていきたい。

取組目標	取組結果	自己評価
自主性を高める行事の計画・実施	計画していた行事は予定通り実施できた。	A
児童・生徒に自己選択・自己決定する機会を設け、責任をもたせる指導を行う。	障害特性のこだわりなどで、学習に乗れないときや係活動の分担で、何をやるの	A

	かを意図的に選択させ、切り替えさせたり、選んだ活動を最後までやりきる経験をとおり、自分から取り組む気持ちを育てることができてきた。	
学校保健委員会の開催（年2回）	1回は書面開催、年度末に対面で実施した。	A
本校の教育活動の情報発信	学校運営連絡協議会で委員の方から学校ホームページの更新回数が遅いことを指摘された。計画的に更新しているものの、最終的にかろうじて目標を達成した。	B
教職員のライフ・ワーク・バランス（学校閉庁日6日）	目標通り設定し実施できたし、月45時間超過勤務者の延べ人数が目標人数160人に対し、243人と大幅に増えた。	C

2 令和8度に向けての課題と対策

来年度は児童・生徒数が400名を超え、全ての普通教室を2分割し、2学級として使用することになり、学習環境としては決して良いとは言えない状況である。その分、個別課題ボックスの活用、水元スタンダードという日常生活の指導や、社会性の学習、国語・算数（数学）の学習の進め方や会議の進め方等学校運営についての基本形を記したマニュアル、業務進行表を活用した校務分掌業務の円滑な進行管理など、新採でも、異動者でもすぐに本校の教育活動の進め方が視覚的に理解でき、誰が指導しても一定の同じ方法で指導できるように取り組んでいく。また、来年度は外部専門員に教員経験のある授業アドバイザーを依頼し、療育の専門家の助言を教育の場に落とし込んでいく橋渡しの役割を担っていただくことを考えている。

- (1) 学校行事の取組で体育発表会を発展的に解消し、体育授業参観週間として全学年、体育・保健体育の授業参観を行う。学習発表会に当たる水元まつりも全校実施とし、2日間開催とする。
- (2) 都立葛飾特別支援学校との連携を維持し、本校の進路指導の取組を充実させる。
- (3) 発達年齢だけでなく生活年齢を考慮した学年相応の指導を徹底するなど、教職員の人権感覚の育成と指導の手順等を説明できる根拠に基づく指導を行う。
- (4) 児童・生徒に良い授業を提供すること、良い授業が提供できる教員を育成することを実現するため、外部専門員と連携した授業改善システムを維持する。
- (5) 特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育のセンター的機能における葛飾区内の幼稚園、保育園、市立小・中学校への巡回相談、出前授業、研修会等を実施する中で、特別支援教育を担える人材の育成に貢献する。